

「辺野古政策は未整理」

新党中道 安住氏が発言釈明

停止「現実的でない」

【東京】立憲民主党の安住淳幹事長は20日、米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に関する新党「中道改革連合」の方針を巡る自身の発言について釈明した。19日の新党綱領発表会見で、移設工事を止めるのは現実的ではないと発言したことについて、「言葉足らずだった」と述べた。新党としての辺野古移設政策は「整理はまだできていない」と記者団に述べた。(2、24面に関連)

「沖縄の皆さんの心情に寄り添った対応をしていきたい」と述べた。立民から新党に加わる屋良朝博衆院議員は20日、安住氏と面談し、発言の撤回を求めて抗議した。屋良氏によると、安住氏から謝罪を受けたという。屋良氏は「今後も変わらず中止を訴えていく」。

県民の民意を新党にも伝え、議論していきたい」と述べた。立民県連としても21日にも党本部に抗議し、発言撤回を要求する。新党に対しても辺野古中止を掲げるよう求める考え。(嘉数陽、明真南斗)

立民・屋良氏が抗議

安住氏は、立民として「辺野古中止」の立場に変わりはないと強調した。その上で自身の発言の背景には旧民主党政権時代に辺野古移設を進めた経緯や、与党として移設を推進してきた公明党への配慮があったと説明した。新党における辺野古移設の考えについては